

飾るよう、ご暮らすたのしみ



「白鳥の歌」(1925年)

2026.4.4 sat - 6.28 sun

竹久夢二(1884-1934)は、個性的な女性像「夢二式美人」を描き表し、詩情豊かな世界をイラストレーションや文芸作品に表現する傍ら、デザイン分野でも多くの仕事を残しました。

自身の図案をほどこした雑貨を扱う「港屋絵草紙店」を開き、さらに創意工夫を取り入れた美的な暮らし方を雑誌で発信、また晩年は日用品を製作する美術研究所を計画するなど、自由な発想で日常生活を趣味よく彩るデザインを追求しました。本展では「デザイナー・夢二」に注目し、和の趣に加えて西洋文化を入れたモダンな図案の数々を紹介します。

(担当学芸員によるギャラリートーク
4/18(土)、5/24(日)、6/13(土)
いずれも午後2時より)



オモテ: 千代紙 大椿(1914年)
ウラ: 「新少女」少女用半襟の図案(1915年)



セノオ楽譜「ベニスの夜」(1924年)



『中央文学』新年号(1920年)

竹久夢二のデザインワーク

飾るよう
暮らすたのしみ
竹久夢二のデザインワーク

竹久夢二美術館

TAKEHISA YUMEJI MUSEUM

<https://www.yumeji-museum.jp>

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2
Tel: 03-5689-0462

●開館時間=午前10時~午後5時(最終入館は午後4時30分) ●休館日=月曜日 ★4/28~5/10は無休
●入館料=一般1,200円/大・高生1,000円/中・小生500円 ★弥生美術館と2館併せてご覧いただけます。

× 切り取って
ボナ袋としてご活用ください。

展示コーナーと広報図版紹介

広報図版をご使用希望の場合は、「画像使用申込書」に必要事項を記載の上、FAXまたはメールで当館にお送りください。

出品点数 約350点(予定)

♠ 和×洋のデザイン 港屋絵草紙店と紙小物

夢二は暮らしの中から見出した題材をアール・ヌーヴォー調に図案化し、江戸趣味をもたせてデザイン作品を飾った。この章では大正から昭和初期にかけて生まれた千代紙や絵封筒、便箋などの紙小物を中心に紹介する。

1914(大正3)年に、夢二デザインの日用雑貨や木版画を扱う店舗として東京・日本橋に開店した港屋絵草紙店は、生活と美術を結ぶ夢二の理想を具現化した。2年ほどの営業を経て閉店したが、東京名所と呼ばれ、広く好評を博した。



夢二、港屋絵草紙店の前で
1914年



②千代紙 大椿 1914年

♠ 手芸のための図案と付録 女性向け雑誌より

夢二は手芸のための図案や紙小物を女性向け雑誌の付録として発表し、読者が自らの生活に工夫を加えることで、便利で趣味よい暮らしを提案した。

右図は、着物の襟のよごれ除けと装飾に使用する半襟の刺繍図案として、夢二が雑誌『新少女』に掲載したデザイン。



③少女用半襟の図案 1915年

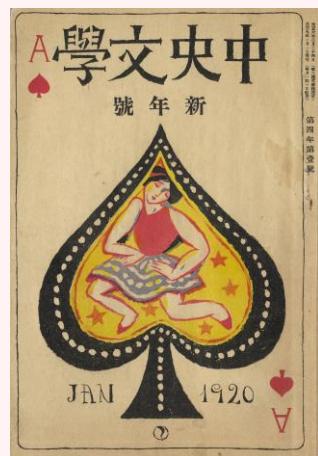
♠ 雑誌を飾る図案とイラスト

夢二は雑誌の表紙をはじめ、目次や扉、カットまで、雑誌の系統ごとに描き分けた。月刊雑誌を多く手がけ、流行や季節感を取り入れた夢二のデザインは読者の目を楽しませた。

本展では夢二画の表紙を多数公開し、イラストの制作過程がわかるスケッチや原画も合わせて紹介する。



④『少女世界』カット
(原画) 1927年



⑤『中央文学』新年号
1920年

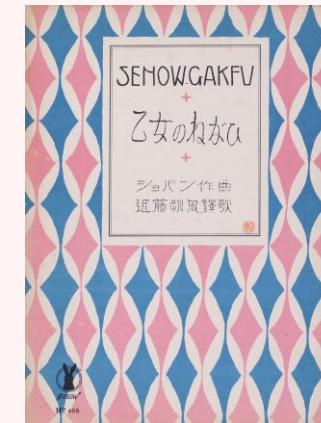
♠ 歌曲の世界とイメージ

1915(大正4)年より、古今東西の歌曲を紹介する「セノオ楽譜」のために、夢二は約280点の多彩な表紙絵を描いた。

海外の文化を洋雑誌や画集等を通して吸収した夢二による異国情緒あふれるイラストも数多く、また歌詞からイメージを膨らませ、詩人画家の視点で歌曲の世界を表現した。さらに絵柄にあわせてタイトルもバラエティー豊かな描き文字で飾られた。



⑥セノオ楽譜
「ベニスの夜」1924年



⑦セノオ楽譜
「乙女のねがひ」1927年

みどころ

1. 夢二が画業を通して力を注いだ、
美術と生活を結ぶ活動を振り返る
2. 展示総数約350点! 人気のセノオ楽譜や
雑誌表紙のデザインを多数公開
3. かわいい・不思議・おしゃれ…夢二が得意とした
ティストを一堂に集めた展覧会

♠ 著書とブックデザイン

夢二は画集や詩集など57冊の著作物に加え、他の作家の書籍も260冊以上装幀した。

個々の文学作品の世界観を反映し、表紙から中面の各部への繋がりを意識した夢二によるブックデザインは、当時から高い人気を集めていた。実用的であるだけでなく、書籍そのものを作品として鑑賞する楽しみを気づかせてくれる。



⑩『縮刷 夢二画集』1917年



⑪『白鳥の歌』
長田幹彦 著・竹久夢二 装幀
1925年

♠ 華やぎの広告・商業図案

大正から昭和初期にかけて、企業は大衆の消費を促す広告デザインの制作を、画家や商業美術家に依頼するケースが増加し、グラフィックデザインの分野が発展した。

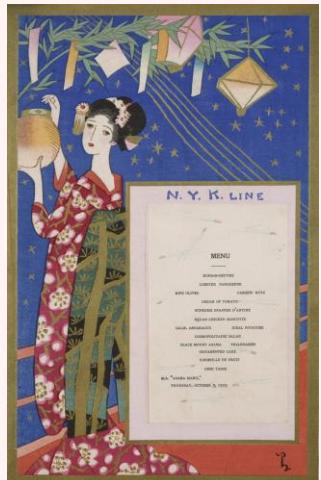
時流に合わせて企業や商品を一層魅力的に見せるデザインを残した夢二は、現代のデザイナーの先駆けにあたるだろう。

⑧便箋表紙「ゆびきり」
1929年



1929(昭和4)年より国際航路を運航した貨客船・浅間丸で配布されたメニューは、利用客が旅の記念として持ち帰ることができた。

木版による色鮮やかな夢二のイラストは、舞妓の着物と背景に縁起の良い松竹梅があしらわれている。

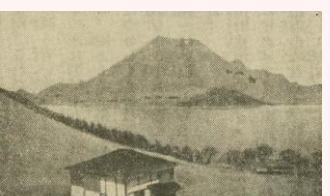


⑨浅間丸メニュー
1929年

♠ 「手による産業」がひらく 美のある暮らし

昭和初期、夢二は群馬県の榛名山にアトリエを建設した。そこで機械化や大量生産を避け、現地の材料から日用品を手仕事で製作し、普及させようと、夢二は1930(昭和5)年に榛名山美術研究所の開設を宣言した。

その後、欧米の産業美術を視察する外遊に出かけ、病を得て帰国したため、研究所は実現に至らなかったが、晩年の夢二は創意工夫をこらした、簡素ながら美しい暮らしを追求しようとした。



榛名湖畔に建つ夢二のアトリエ
昭和初期

展覧会概要

展覧会名称

飾るよろこび 暮らすのしみ
竹久夢二のデザインワーク

主催及び会場

竹久夢二美術館

住所

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

Tel

03-5689-0462

会期

2026(令和8)年4月4日㊁～6月28日㊂

休館日

月曜日(4/28～5/10は無休)

開館時間

午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分までにお願いします)

入館料

一般 1200円 大・高生 1000円
中・小生 500円

※弥生美術館と二館併せてご覧頂けます。

交通

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩7分
JR上野駅 公園口より徒歩20分



ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>



担当学芸員による
ギャラリートーク

開催

4/18(土) 5/24(日) 6/13(土)

いずれも午後2時より

展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 徳重美佳 までお願いいたします。

tel 03-5689-0462

fax 03-3812-0699



竹久 夢二



明治17年～昭和9年

(1884-1934)

岡山県出身の詩人画家。新聞、雑誌への投稿から1905(明治38)年末に挿絵画家としてデビューし、センチメンタルな夢二式美人画で人気を博した。画壇に属さず、日本画、水彩、木版画などで日本の郷愁と西欧のモダニズムを自在に表現し、詩や童謡などの文芸分野でも活躍した。生涯に数多の恋愛と旅を経験し、創作に反映したが、結核のため1934(昭和9)年没。

竹久夢二美術館

1990(平成2)年開館。都内で夢二作品を鑑賞できる唯一の美術館です。館が建つ東京・本郷は、夢二が滞在した〈菊富士ホテル〉がかつてあり、また最愛の女性、笠井彦乃と逢瀬を重ねた場所で、今なお昔の風情を留めて静けさと木々の緑に包まれています。



FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 德重 行

飾るよろこび 暮らすたのしみ 竹久夢二のデザインワーク

画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

通信欄

画像データの提供について

同封のプレスリリース掲載の番号のある図版について、メールで画像データをお送りいたします。

ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699までお送りください。また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 德重宛